

自然観察おもしろ講座

森と水辺のいきものさがし

羽根 敏子（松戸市）

日 時：2023年10月7日（土）10～12時 天気：晴れ

場 所：21世紀の森と広場 縄文の森・みどりの里（松戸市）

参加者：11名（大人5名、子ども6名）、講師：羽根敏子・寺園直美

動機：2022年の秋に、LEAF ローカルインストラクターの講座を受けた2名が、初めての活動として、21世紀の森と広場のパークプロジェクトに、親子対象で実施しようと計画。3回の下見を重ね、お互いの得意分野「森」と「水辺」を入れ、その2つのつながりとして「水の循環」を裏テーマとした。

プログラム

- ・導入：どんぐり体操（どんぐりが発根して 風に吹かれながらも成長していく過程を体で表現）
五感体操（観察のウォーミングアップとして、触覚・視覚・聴覚に意識して周りを観察）
- ・展開1：森のいきものさがし（縄文の森）
 - ① ビンゴカードにある9種類の森の落とし物や地面にあるものを探す。
 - ② 集めたものを見ながら、森に一番多く落ちている葉っぱはこの後どうなるかを考える。
 - ③ さらに森に降る雨の行方について考える。
(ペットボトルのろ過装置に土を入れ、水を入れて観察)
- ・展開2：水辺の生き物探し（泥んこ池）
 - ① タモ網を使って池の生き物を捕まえて 観察する
 - ② 生き物の種名と在来種と帰化種の分類をし、なぜ海外の動物がここにいるのかを考える。
- ・まとめ：今日見た動物、疑問に思ったこと、発見したことなどを発表してもらう。

実施

- ・「森」で見つけた動物は、アオマツムシとアブラゼミの死骸、アリ
「水辺」で見つけた動物は、カダヤシ、タモロコ、モツゴ、ハイイロゲンゴロウ、トンボ幼虫
スジエビ、テナガエビ、アメリカザリガニ
- ・展開1の②の時に、キイロスズメバチ1頭が参加者の周りを飛び、なかなか去ってくれなかった。
仕方がないので、活動を中断して展開2の泥んこ池へ移動した。

感想

LEAF では、答えを教えるのではなく 考える過程を重視する。今回は教えないように、答えを誘導しないようにと注意しながら話をしたが、やはり難しかった。参加した子どもたちは自然についての知識は豊富で、ズバリ正解を答えてくれる子どももいて 逆に戸惑ってしまう場面もあった。

森と池で生き物を探すのは本当に楽しそうであった。特に池では多くの動物を捕まえて、夢中になって観察していた。

キイロスズメバチにまとりつかれたときに、スズメバチの生態や、自然界での役割などを話そうとしたが、上手く話すことができなかつたことが残念だった。しかし事前にスズメバチに会った時の対処方法の話をしていたので、子ども達は騒がないでスズメバチが止まってもじっとしてしてくれた。まとめの時にそのことを褒めたら「学校で友達にスズメバチに会ったことを話す」と言ってくれた。スズメバチと正しく共生できる人間が増えたと確信した。（後で聞いたのだが、このような場合は、ハチ用の殺虫剤をひと吹きかけると、あっさりと去ってくれるそうだ）



アイスブレイク どんぐり体操



ビンゴカードで森の落とし物さがし



泥んこ池 水辺で生き物さがし